

2022《後期》吃音指導講座・構音指導講座 開催のご案内

2022《前期》構音指導講座・吃音指導講座には、コロナ禍が収まりきらない中で開催にもかかわらず全国各地からご参加をいただきありがとうございました。

また、この度も帰宅を急がれる中、『一言感想』をお寄せいただいたきました。構音指導講座及び吃音指導講座でしたが、“人と関わる” “ことばと関わる” という点では切り離すことはできず、『一言感想』では、個人毎に載せさせていただきました。



一言感想を読ませていただいて、何時も感じるのは、感想の“言葉”の一言一言に、その先生が指導や治療として関わる方々への強い想いです。

この“強い想い”を背景に、この度の『吃音指導講座』では、より多くの時間を“声を合わせる実技”に割きたいと考え1日目に設定いたしました。

また、構音指導講座では、[ke]の構音(点)指導の仕方そのもの、そして“般化の指導”の『視聴と解説』を設定いたしました。

2019《後期》構音指導講座の『一言感想』にも、本講座の基本理念（ことばへの指導・治療として人と関わるということ）に関わる記述が多くありましたので、再度掲載いたしました。一度触れた方も、再度目を通していただければと思います。



《 新型コロナウイルス への対応 》について

【 基本的には、各都道府県の対策や要請を遵守して下さい 】

新型コロナも変化を続け、連日のように感染者数が更新される状況です。

しかしながら、現在、講座開催につきましては、「県民ホール」の指示の下、万全を期して準備を致しております。

新型コロナの全国的な感染状況により延期せざるを得ない場合は、2023年度に延延したいと考えています。

詳細は、親子ことばの相談室のHPにて3月下旬までにはお知らせ致します。

2022《後期》講座の延期の連絡について

《後期》講座の延期が、事前に予想された場合は、**9月6日(火)**までに、親子ことばの相談室のHPでご連絡いたしますのでご留意下さい。

また、既に申し込まれた先生方には、**所属所**にも、FAXにて連絡いたします。

ホテル・交通機関等の利用にかかる費用のキャンセル料金につきましては、各自ご負担いただきますようお願い申し上げます。

2022《後期》 吃音指導講座

吃音のある方が生きやすくなるための発語指導の実際

— 発語指導のための指導者のスキルアップ実技研修 その2 —

● 基本スタンス ●

小学生の場合、学校での音読が、今までよりほんの少しでも楽に読むことができると、それだけでも物凄い自信になり、そのことがさらに楽な発語での音読を誘発するという循環を生み、そのことを契機に、学級での自発的な発言が多くなっていく子もいます。

ですから、吃音のある子に対する主な指導方針の一つに『音読指導』を位置づけ実行することは、豊かな学校生活をもたらす大切な指導と考えています。

- ・姪っ子に童話絵本を吃らないで読み聞かせができるようになったら、教員の採用試験を受けたい
- ・僕の吃音を級友も教科担任も受け入れ、グループ発表の際、自分の発表での時間が他のメンバーのほぼ倍の時間を要してもいいと言ってくれたが、自分としては、他のメンバーと同じ時間内で発表したい。
- ・卒業式で、「将来の夢」を言わなければならない。呼び掛けの台詞も多い！
- ・タレントになりたいという小学3年生の女の子、それを叶えてあげたい親御さん
- ・本当は救急医療に従事したい。でも、吃音で言葉が出難く諦めようかと訪れた医学生
- ・路上ライブをやってみたい ・自分の自由研究を学校代表で発表しなければならない 等々

このような方々に、どのように対峙することが吃音のある方々の立場に立った支援なのでしょう？

これらの夢を一緒になって叶えてあげたいと思いませんか！ いかがです？ 流暢性を高める指導に、慎重に“挑戦”してみませんか！？

◎ 2022《後期》 吃音指導講座の内容 ◎

- ① 「朝の会の進行を自力でしたい！」と来室した中学1年生次元君(仮名)への指導
— 初回から終了までの視聴と解説 —
- ② 構音障害のある幼児に対する共調発語指導法の適用
- ③ 共調発語指導法での非流暢性に影響を与える指導技法の紹介
- ④ 発語指導のための指導者のスキルアップ(実技研修 その2)

【お詫び】《前期》講座で予告しました『側音化構音と吃音の改善を主訴に来室した年長男子への指導(通室27回で終了)』は、2023講座に延期いたします

山形言語臨床教育研究会 代表 梅村 正俊

主 催：山形言語臨床教育研究会

開催期日：2022(R4)年9月17日(土) 10時～19時

場 所：やまぎん県民ホール(山形県総合文化芸術館・3階)：スタジオ2

講 師：梅村 正俊(山形言語臨床教育相談室：言語聴覚士)

演者プロフィール



【講座参加費】基本参加費：5,000円(当日徴収) **参加募集定員：30名限定**

【参加の条件】全日程の参加が可能

【参加申込の方法】必要事項の全てを**楷書**で記載し、**FAX**でお申し込み下さい

【参加申込の締切】9月9日(金) … 定員になり次第締め切ります

【問い合わせ先】山形言語臨床教育相談室 ※ お問い合わせは、全て**FAX**でお願い致します
990-2483 山形市上町 5-11-24 **FAX専用：023-646-6492**

“共調発語指導”の基本原理

共調発語指導で目標とする発語の状態は、音読であれフリートークやプレゼンなどの発話であれ、楽な発声から得られる楽な発語です。

例えば、強いブロックで、奇異な随伴動作の伴う吃症状が認められる場合であっても、「さかな」を発語するとき、語頭の「サ」に出現した吃症状が、「カ」にも「ナ」にも出現することはとても稀です。また、語頭に出現しないで、「カ」や「ナ」に出現することも、とても稀です。

特に、小・中学生の場合、語頭や文頭、つまり、「サ」に吃症状が出現したとしても、次の「カ」や「ナ」の発語は、喉の力みの無い楽な発語になっていることの方が多く観察されます。

ですから、共調発語指導では、発語指導上、

「非流暢性の状態」よりも『楽な発語の状態』の把握

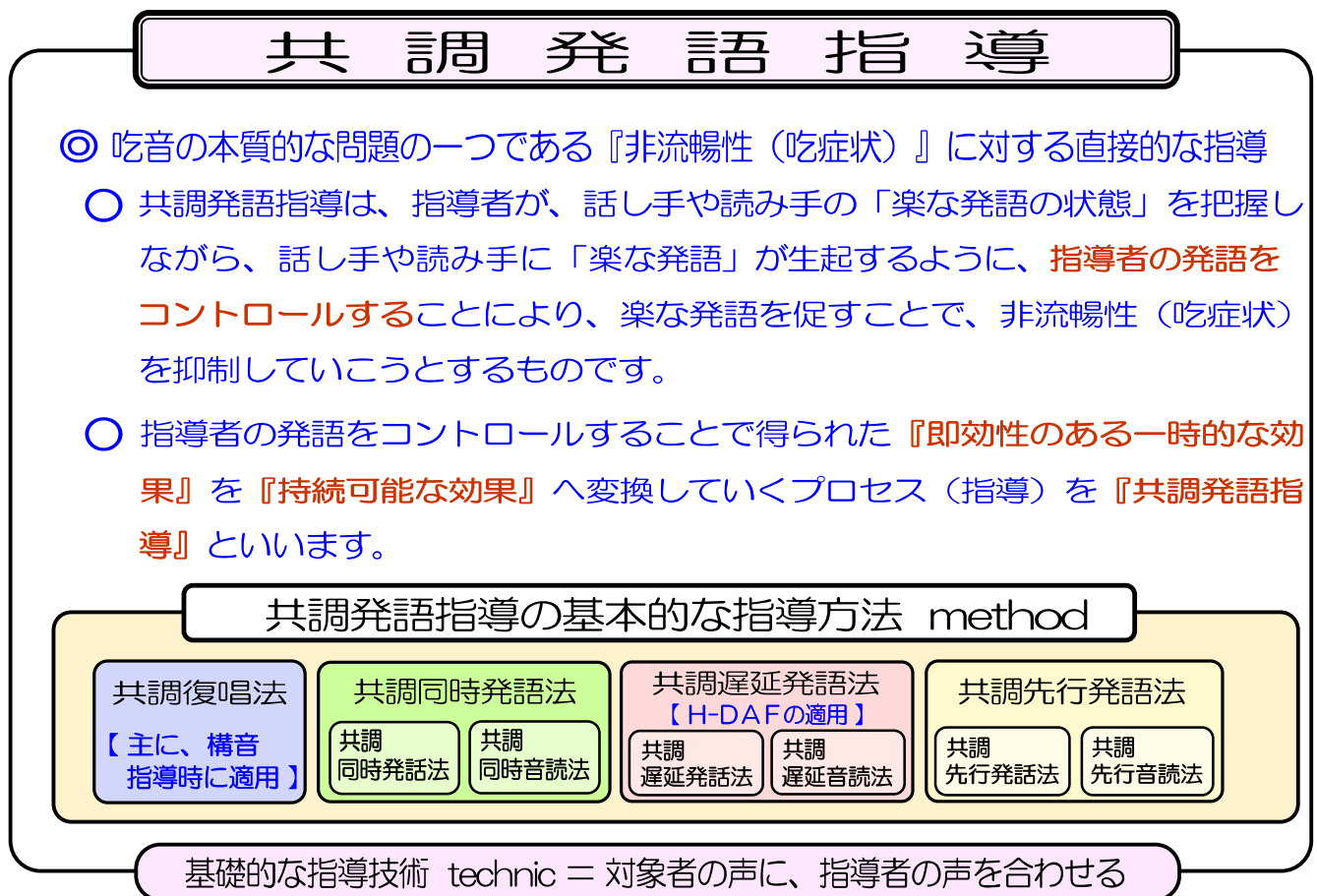
をポイントに発語を観察します。

そして、その『楽な発語の状態』を維持した状態で、対象者【幼児から成人】に応じた素材や課題、環境設定を行い『共調発語指導法』を適用します。

指導の終了は、基本的に「いつでもどこでも吃らない = 〇_{ゼロ}を目指す」ものではありません。

今が“生きやすくなる”ことを当面の指導課題として、指導を始めます。

下記の図は、『共調発語指導の基本原理や基本的な指導方法』をまとめたものです。



次頁の図は、『共調発語指導の基本的な指導方法』について「非流暢性に影響を与える方法での分類」及び「共調発語指導の適用領域による分類」から、まとめたものです。

共調発語指導の基本的な指導方法 method

非流暢性に影響を与える方法での分類

共調復唱法

【主に、構音指導時に適用】

共調同時発語法

共調同時発話法

共調同時音読法

共調遅延発語法

【H-DAFの適用】

共調遅延発話法

共調遅延音読法

共調先行発語法

共調先行発話法

共調先行音読法

共調発語指導の適用領域による分類

《R・D・Eの各領域は、『発語指導プログラム』での領域》

構音指導

共調復唱法

@ 構音点指導から日常会話への般化まで

【共調音読指導】

音読指導の領域【R】

共調同時音読法

共調遅延音読法

共調先行音読法

【共調発話指導】

自由会話の領域【D】

共調同時発話法

共調遅延発話法

共調先行発話法

プレゼン説明・伝達等の領域【E】

共調同時発話法

共調遅延発話法

共調先行発話法

基礎的な指導技術 technic：対象者の声に、指導者の声を合わせる

実際の指導での『共調発語指導の基本』は、以下の2点です。

- ① 『音読指導の視点になる**楽な発語**での音読』になっている“単語や句”を**即座に聞き分け、把握**することができる【2022<前期>講座の再確認】
- ② 把握した『楽な発語』が持続するように、**指導対象者の声に**『指導者自身の声を合わせる』ことができる【午前午後の実技：今期講座のメインテーマ】

ですから、共調発語指導では、『側音化構音に対する指導で、構音時の“顎の偏位や舌の膨らみ”等々に対する指導を行わない方が、楽しく効果的に指導ができる』のと同様に“どのような非流暢性か、どのような随伴動作が生起するのか”に特段の関心を持つ必要はありません。

また、『**楽な発語**』がテーマですから、“**腹式呼吸**”や“**口呼吸・鼻呼吸**”などの呼吸の仕方を練習することは**ありません**。

※ 『共調音読指導』の参考に、下記の指導動画をYouTubeや相談室HPでご覧の上ご参加下さい。

St27 「声が出ない」ということ・「声が出る」ということ

ー 小学5年生綾乃さんの音読指導からー

St21 共調音読指導の紹介：小学3年生由加さんの場合【本編】

St23 共調発語指導の紹介：小学5年生茂君の場合【本編】



2022《後期》吃音指導講座 ★ 講座の基本的な進め方と日程

- ① 演習形式での進行が基本
- ② 質問がある場合は、講話の途中であっても、話をさえぎってでも質問して下さい！

お断り：参加者の更なるご要望により、当日の内容・日程が変更されることがあります。
できるだけご要望にはお応えしたいと考えています。予め、ご了解ください。

9月17日（土） ※ 登場するお子さんの名前は、全て仮名です

受付

9時30分～10時頃

10時～11時20分頃（10分休憩）

■ 共調発語指導について

- まずは、実際の指導を見てみましょう（視聴とその解説）

第3回日本吃音・流暢性障害学会発表動画から

— 吃音と発音の誤りを主訴に来室した年少男子への発語指導 —

- ① 楽な発語の状態
- ③ 構音指導での発語指導
- ② 『平行同時音読』と『共調同時音読』の違い
- ④ 指導終了の状態

- 『共調発語指導の基本原則や基本的な指導方法』

「非流暢性に与える方法での分類」及び「共調発語指導の適用領域による分類」

St29 — 共調発語指導法での非流暢性に影響を与える指導技法の紹介 —

テーマ：「声を合せる練習」から『非流暢性に影響を与える指導技法』へ



11時30分頃～12時頃

- 吃音指導講座：課題

21課題：茂君の「ジャックと豆の木」の音読での楽な発語の状況は？

【答え合わせ＝楽な発語の状態をしっかりと聞き取りましょう】



12時頃～13時頃

■ 「朝の会の進行を自力でしたい！」と来室した

中学1年生次元さん(仮名)への指導【その2】

— 初回から終了（25回通室）までの指導（ダイジェスト版）の視聴と解説 —

＜中学1年生次元君の概要＞

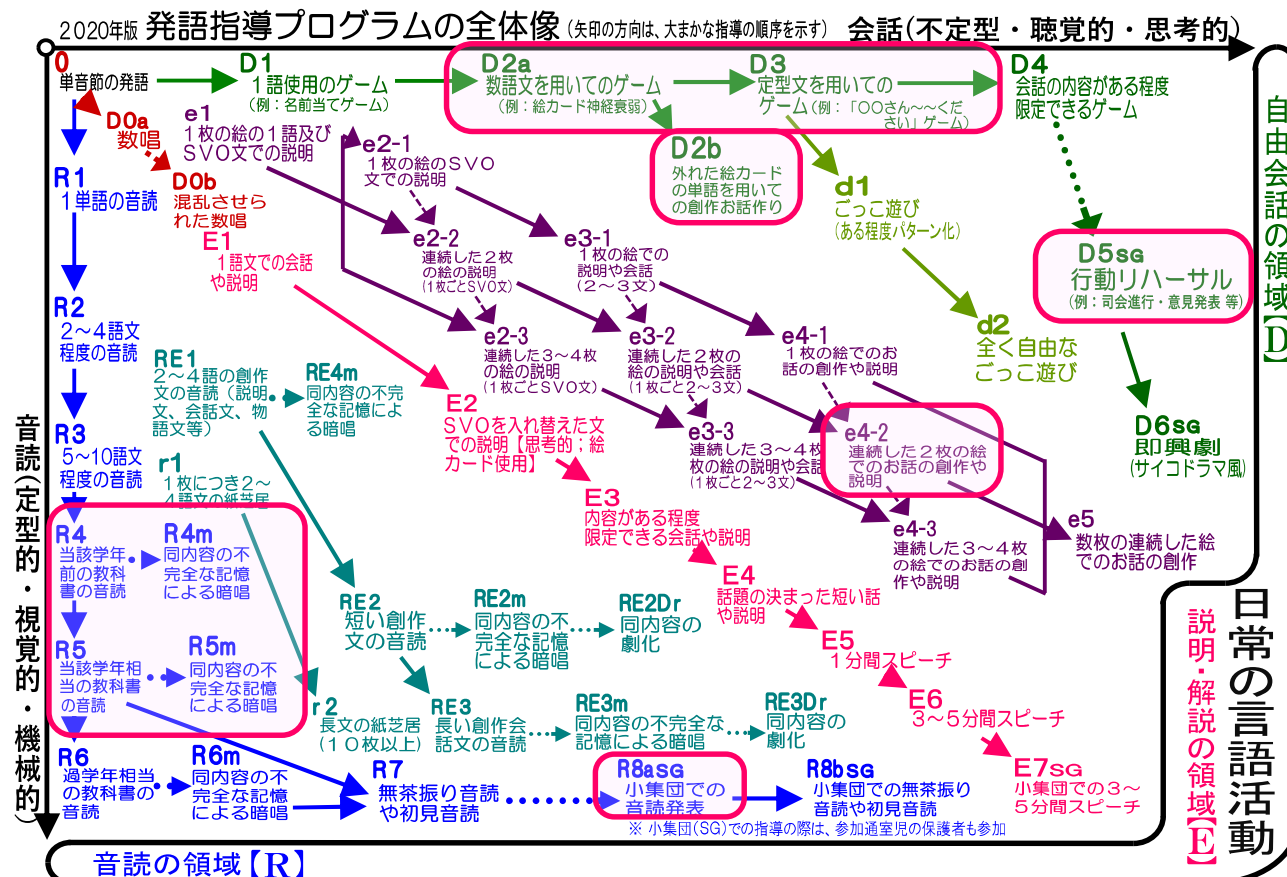
- 小学校での学級当番は、何年生からか、特に「おはようございます」の「お」の発音で声が出ない為に、卒業まで、他の人に代わって貰ったり、吃らないように隣の子と一緒に言うようにしてもらっていました。
- 中学校でも、日直では朝の会の進行をしなければならず、本人と相談の上、朝の会の進行を免除してもらっていました。しかし、本人の了解を得ているとは言え、そのことは、次元さんのプライドを酷く傷つけたようで、3学期には、吃音がひどくなって言葉が出にくくなったように感じることもあり、自分から「吃りを直したい」と訴えました。
- 次元さんは、小学4年頃から、たまたま近所にある小さなボクシングジムに通い始めます。理由は、吃音をからかわれ、いじめられるからと本人。ボクシングを習っている事が知られるようになると、いじめやからかいは無くなったそうです。



《 次元さん(仮名)への指導：発語指導プログラム上の領域 》

2020版発語指導プログラムの全体像(PDF)

□：指導視聴の場面



■ 「指導対象者の声」に「指導者の声」を合わせる実技研修【その1】

■ まずは、実際の実技研修を見てみましょう（視聴とその解説）

St16 第2段階の研修＝子どもの声に指導者が声を合わせる実技 新O1/O2

St17 第2段階の研修＝子どもの声に指導者が声を合わせる実技 新O2/O2

■ さあ、実技です。グループ付のアドバイザーが進行します。

- 1グループ8～10名に分かれます。
- 1グループ毎に、アドバイザーが付きます。



■ 「朝の会の進行を自力でしたい！」と来室した

中学1年生次元さん(仮名)への指導【その2】

■ 「指導対象者の声」に「指導者の声」を合わせる実技研修【その2】

茂君の「ジャックと豆の木」の音読での楽な発語の状況は？

【課題記入用紙】

共調発語指導で目標とする発語の状態は、音読であれフリートークやプレゼンなどの発話であれ、楽な発声から得られる楽な発語です。

例えば、強いブロックで、奇異な随伴動作の伴う吃症状が認められる場合であっても、「さかな」を発語するとき、語頭の「サ」に出現した吃症状が、「カ」にも「ナ」にも出現することはとても稀です。また、語頭に出現しないで、「カ」や「ナ」に出現することも、とても稀です。

特に、小・中学生の場合、語頭や文頭、つまり、「サ」に吃症状が出現したとしても、次の「カ」や「ナ」の発語は、喉の力みの無い楽な発語になっていることの方が多く観察されます。

ですから、共調発語指導では、発語指導上、「非流暢性の状態」よりも『楽な発語の状態』の把握をポイントに発語を観察します。

そして、その『楽な発語の状態』を維持した状態で、音読やプレゼンの練習を行います。

実際の指導での『共調発語指導の基本』は、以下の2点です。

- ① 『音読指導の視点になる**楽な発語**での音読』になっている“単語や句”を**即座に聞き分け、把握**することができる
- ② 把握した『楽な発語』が持続するように、**指導対象者の声に**『指導者自身の声を合わせる』ことができる

ですから、共調発語指導では、『側音化構音に対する指導で、構音時の“顎の偏位や舌の膨らみ”等々に対する指導を行わない（関心を持たない）方が、楽しく効果的に指導ができる』のと同様に“どのような非流暢性か、どのような随伴動作が生起するのか”に関心を持つ必要はないのです。

1日だけの講座で、習熟することは困難です。ですから今回は、<<前期>>講座に参加された方も再度体験をしていただければと考えています。

『共調音読指導』の参考に、下記の指導を**YouTube**や**相談室HP**でご覧下さい。

- ◎ 吃症状に対する共調音読指導の『即効的な効果』：小学3年生由加さんの場合
- ☆ 共調音読指導の紹介：小学3年生由加さんの場合【本編】
- ◎ 吃症状に対する共調音読指導の『即効的な効果』：大学4年生小梢さんの場合
- ☆ 共調音読指導の紹介：大学4年生小梢さんの場合【本編】

下記の指導事例の児童は、『本講座課題』のモデルになった小学5年生の茂君です。

St23 共調発語指導の紹介：小学5年生茂君の場合【本編】

St24 吃症状に対する共調音読指導の『即効的な効果』：小学5年生茂君の場合



【課題記入用紙】

< 課題 >

共調発語指導では、指導上、「非流暢性の状態」よりも『楽な発語の状態』を把握することをポイントに発語（音読）の状態を観察します。以下の音読の結果は、茂君の吃音音読検査「ジャックと豆の木」の連続5回音読での5回目の音読です。

_____ は、比較的楽な発語で音読をしている箇所を示しています。その中でも、茂君の音読指導上『特に、音読指導の視点になる 楽な発語での音読』の状態と考えられる単語や句を **16箇所** 選んで、好きな **印** をつけて下さい。



A むかし ⁰¹ある ⁰²ところ に ジャック と ⁰³いう 男 の こ が い ました。

B ジャック ⁰⁴の ⁰⁵うち は お ⁰⁶とうさん が ⁰⁷なく ⁰⁸びんぼう ⁰⁹でし ¹⁰た ¹¹ので

C ジャック は がっこう へ 行く ¹²こと も ¹³でき ¹⁴ませ ¹⁵ん ¹⁶でし ¹⁷た。

D とうとう ¹⁸うち ¹⁹に は パン も ²⁰なく ²¹なり ²²牛 が ²³いっ ²⁴びき ²⁵いる

E ²⁶だけ ²⁷に ²⁸なっ ²⁹て ³⁰しまっ ³¹た ³²ので ³³ある ³⁴とき ³⁵お ³⁶かあさん が

F ³⁷ジャック ³⁸に ³⁹いい ⁴⁰まし ⁴¹た。 「まち へ ⁴²行っ ⁴³て ⁴⁴この 牛 を

G ⁴⁵売っ ⁴⁶て ⁴⁷おいで ⁴⁸そして ⁴⁹その お ⁵⁰かね ⁵¹で ⁵²パン ⁵³や ⁵⁴おまえ の

H くつ や ⁵⁵ズボン ⁵⁶を ⁵⁷買い ⁵⁸まし ⁵⁹ょう。 」 ジャック が ⁶⁰牛 ⁶¹を ⁶²つれ ⁶³て

I ⁶⁴げんき ⁶⁵よく ⁶⁶まち ⁶⁷を ⁶⁸ある ⁶⁹い ⁷⁰て ⁷¹いる ⁷²と ⁷³ずっと ⁷⁴むこう ⁷⁵の ⁷⁶ほう

J ⁷⁷から ⁷⁸ひとり ⁷⁹の ⁸⁰おじさん ⁸¹が ⁸²フラフラ ⁸³と ⁸⁴やっ ⁸⁵て ⁸⁶き ⁸⁷まし ⁸⁸た。

K ⁸⁹「 ⁹⁰どうだ ⁹¹ね ⁹²ぼうや ⁹³その 牛 ⁹⁴と ⁹⁵この ⁹⁶豆 ⁹⁷を ⁹⁸とり ⁹⁹かえ ¹⁰⁰ない ¹⁰¹か ¹⁰²ね。 」 と

L ¹⁰³おじさん ¹⁰⁴が ¹⁰⁵いい ¹⁰⁶まし ¹⁰⁷た。 ¹⁰⁸みる ¹⁰⁹と ¹¹⁰それ ¹¹¹は ¹¹²たいへん ¹¹³きれい ¹¹⁴な ¹¹⁵豆

M ¹¹⁶でし ¹¹⁷た ¹¹⁸ので ¹¹⁹ジャック ¹²⁰は ¹²¹むちゅう ¹²²で ¹²³とり ¹²⁴かえ ¹²⁵て ¹²⁶しまい ¹²⁷まし ¹²⁸た。

2022《後期》吃音指導講座

FAX番号 023-646-6492

整理番号 (/ 30)

参加申し込みの際は、整理の都合上、この「参加申込書」をこのままご使用下さい
参加者お一人につき1枚でお申込み下さい。また、送付書はつけずに送信して下さい

● 構音指導講座・吃音指導講座 **それぞれに** お申し込み下さい

2022《後期》構音指導講座への参加（あり・なし）

● 太枠内の**全て**について、“**楷書**”でご記入下さい。

◎ 前講座への参加状況につきましては、（参加・不参加）のいずれかに○印をつけて下さい

講座への参加状況	2019《前》構音講座 (参加・不参加)	2019《後》構音講座 (参加・不参加)	2022 (構音・吃音・不参加)
----------	----------------------	----------------------	------------------

[illegible]